

重点調査項目 住まいに関する調査について
発言項目 空き家等対策計画について
(発言主旨) 空き家のリスクが防犯の観点からも浮き彫りになる中、管理手法について民間と連携し、また地域と協働して取組む必要性を質した。
Q 平成29年度における空き家等の件数とこれまでのC判定の空き家や特定空き家に認定した件数を伺う。
A 空き家等の把握については、平成27年度から水道の利用実績が1年以上ない建物の現地調査を行い、平成29年度の調査においては1,091箇所となったところ。 大きく破損しているC判定の空き家等は、平成27年度の調査で17箇所であったが、現在までの調査では、解体や新たに把握したものによる増減があり、11箇所となっている。その内、所有者等が解体の協議や調整をしているものなどを除いた6箇所を特定空き家等に認定しており、所有者等に対して改善に向けた必要な措置をとるよう助言・指導を行なっている。
Q 愛媛における受刑者逃亡や新潟の女児殺害など、空き家のリスクがこれまでの問題意識とは違う観点から浮き彫りになっている。防犯対策があらためて焦点化されている中、空き家の管理は行政だけの取組みでは限界があることから、民間の空き家管理サービスと連携したり、町内会との協働による見守りを行っている自治体がある。帯広市でもこうした取り組みが必要ではないか。考えを伺う。
A 空き家等が抱える問題は、まちづくりや福祉、防災など様々な分野にわたり、市民生活と密接な関係がある。 生活環境保全のため、空き家対策促進計画に従って、今後も引き続き、所有者等に対しては適正な管理を促すほか、町内会などからの情報収集や地域に出向いた説明会を行うなど、庁内関係部局間で情報を共有しながら対応していく。

重点調査項目 教育に関する調査
発言項目 学校施設劣化状況調査と長寿命化計画について
(発言主旨) 学校施設の使用年数は児童生徒の教育面から建物の耐用年数ではなく、教育環境の公平性の面からも修繕、改築を急ぐこと、そのための長寿命化計画は具体的に策定すべきであることを質した。

Q 学校施設劣化状況調査の結果に関して伺う。「長寿命化」とは具体的にどうすることか。耐用年数及び使用年数について基本的考え方を伺う。

A 文部科学省の手引きでは、目標使用年数を概ね80年とし、長寿命化改修で安全面・機能面・環境面等で向上を図り、定期的な改修等など適切な維持管理を行って長寿命化改修後30年から40年使用するとしている。

鉄筋コンクリート造の学校施設の税務上の法定耐用年数は47年とされており、これまでは建築後40年を経過した校舎については耐力度調査を行い、耐力度が基準以下の学校については、改築による整備を行ってきた。

Q 劣化状況調査を踏まえた長寿命化計画は公共施設マネジメント計画の個別計画に当たる。その計画は学校毎に改修の内容や年次を示す具体的な内容とすべきであるが考えを伺う。一方、老朽化への応急対策は待ったなしである。長寿命化計画との整合をどのように図るかについて伺う。

A 今後、改修が必要な学校や部位について、建築年度や劣化状況等から、一定期間毎にグループ分けを行い、各年度に実施する学校は改修の内容等について予算の平準化も含めて毎年度の予算編成の中で検討していく。

改修が必要となる部位については長寿命化で行うものと、個別の改修で行うものの整理を行う。故障等による応急対応はこれまでと同様に対応する。

その他の質問

(1) 小中学校適正規模の確保等に関する計画について

### 【重点調査項目における発言一覧】

- ① 道路・河川及び橋りょうに関する調査について
  - ・十勝川水系河川緑地の災害復旧状況と使用見込み
  - ・大雪災害時における緊急輸送道路の確保等大雪対策
- ② 住まいに関する調査について
  - ・空き家等対策計画の進捗状況
- ③公園緑地及び街路樹の維持管理について（質問通告）
- ④上、下水道の維持管理に関する調査について
  - ・道路面下の空洞対策
- ⑤学校教育に関する調査について
  - ・安全安心メール、見守り活動など、子どもの安全安心を守る取組み
  - ・規範意識の醸成と道徳教育強化 ・プログラミング教育の取組み
  - ・学校施設劣化状況調査と長寿命化計画について
- ⑥スポーツに関する調査について
  - ・帯広の森テニスコートの改修について
- ⑦動物園の管理運営について（質問通告）